

彦名通信



COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), YONAGO COLLEGE



デザコン2024 in 阿南にて、空間デザイン部門は企業賞受賞！ 構造デザイン部門は最優秀賞、優秀賞受賞！



高専祭にて、コンセプト飲食店の様子

Index

高専祭特集

1年.....	3
2年.....	4
3年.....	5
4年.....	6

特別行事特集

1年 (企業見学・遠足).....	7
2年 (地域学・校外研修旅行).....	8
3年 (工場見学旅行).....	9
4年 (インターンシップ).....	10

課外活動等報告

おもな大会成績・学生主事コメント.....	11
ヨット部・科学部・卓球部.....	12
高専ロボコン・高専プロコン.....	13
高専デザコン.....	14
国際交流活動・海外派遣.....	15-16
卒業生は今 (Vol. 33).....	17

としょぶらり	18
--------------	----

高専祭を開催しました！

学生会長 4C 丸山 未夏

今年度の高専祭は雨天となり、1日のみの開催となりました。雨天での開催となる高専祭の前例があまりなかったことから、対応に追われ、困難なこともたくさんありました。しかし、1日のみの開催でありながら、ステージ企画やクラス企画、模擬店も大盛況で、学生や来場者の方々に楽しんでいただけたことをうれしく思います。

最後に、高専祭の準備、運営に携わってくださった先生方と学生会執行部、高専祭を盛り上げてくれた学生のみなさんに心より御礼申し上げます。来年度の高専祭がより高専の魅力の光る素晴らしいものになることを祈念いたします。

高専祭実行委員長 4C 稲毛 康仁

今年度の高専祭は、2日目が大雨で中止となるハプニングもありましたが、非常に楽しいイベントとなりました。テーマ「Meta Festa」のもと、イベント、クラス企画、飲食企画など、どれも高いクオリティで盛り上がり、まさにハイレベルな高専祭だったと感じています。コスプレファッションショーや一部の個人企画が無くなったのは残念でしたが、雨の日ならではの楽しさもありました。

高専祭は準備から運営まで、多くの人に関わって一つのイベントを作り上げます。今回、私もその一員として携わることができ、とても嬉しく思っています。最後に、高専祭を盛り上げてくれた学生の皆さん、どんなお願いにも応えてくれた学生会の皆さん、そして最初から最後まで支えてくださった先生方に深く感謝申し上げます。



学生会メンバー



学生会執行部4年生



屋外企画の様子



軽音同好会ライブの様子

高専祭クラス企画 1年生

高専祭をとおして

1年学年主任 教養教育部門 大庭 経 示

1年生にとっての高専祭は、クラス全員が協力して一つの企画に取り組む初めての機会です。企画を決め、アイデアを出し合い、役割分担を決め、シフトを作成して…。短期間で多くのステップを踏む中で、級友の意外な一面を発見したり、思わぬコンビが親しくなったりと、クラスが一つになっていく過程を見るのは担任として非常に嬉しい瞬間です。今年の高専祭は雨で短縮されましたが、それさえも成長の糧とする皆を非常に頼もしく感じました。

高専祭実行委員より クラス企画の感想

1-1 小 谷 悟・森 下 莉 音

印象に残ったことは、クラスで分けた班それぞれがお互いを尊重し対立することなく企画を進められたことです。案や方向性が分かれた時も対応し、同じ目標に向かって団結することが出来ました。天候などの関係もあり満足とまでは言えない結果となったかもしれませんが、とてもいい経験になりました。



縁日の企画を行いました

初めての高専祭

1-2 木 口 春 音

私たちのクラスはフォトスポットを企画しました。マリオをテーマにして土管を作ったり、黒板にイラストを書いたり、飾り付けをしたりしました。最初は上手くいか不安だったけど、最終的にはとても良いフォトスポットを作ることができました。みんなで話し合っ協力したので、前よりも仲が深まったと思います。高専祭は1日のみの開催でしたが、とても楽しい思い出になりました。



完成したフォトスポットとともに

私たちは脱出ゲーム

1-3 橋 本 健二郎

私のクラスは、高専祭で脱出ゲームをしました。準備や片付けなどは私達で行い、クラスみんなで団結して作りました。実際に私も体験して、思った以上にクオリティが高くて驚きました。他にも、他クラスの出し物も体験することができ、とても楽しかったし、いい思い出になりました。このような行事に参加することでクラスや学年の仲が深まったし、話したことがなかった人とも話すことができて良かったです。



戦闘準備中

クラス企画を振り返って

1-4 山 中 武 賢

私たちはお化け屋敷を企画しました。準備を始めたころは最後まで完成させることができるのかと不安を感じていました、しかしクラス全員が一丸となって準備を進めたことにより大盛況に終わることができました。また台風の影響で一日のみの営業でしたが、多くの方にお越しいただくことができとても嬉しかったです。



国立青砥病院前にて

高専祭を終えて

1-5 栗 本 香緒里

1年5組は高専祭で縁日を行いました。準備はグループごとに分かれて進め、クラス全体での連携は少なかったですが、グループ内でしっかりと協力し、企画を成功させることが出来ました。無料企画のため難しい面もありましたが、来場して下さった方々に楽しんでもらえたので嬉しかったです。2日目は惜しくも中止となりましたが、初めての高専祭を良い思い出として終わられて良かったです。



高専祭おつかれさま

高専祭クラス企画 2年生

雨に負けずもりあがった高専祭

2年学年主任 教養教育部門 竹内 彰 継

今年の高専祭では2年生のクラス企画は飲食店不可でしたが、トリックアートや縁日やコスプレ学生探しゲームなど、すべてのクラスで力が入った企画が立案されました。高専祭2日目に大雨が予想されたため、初日のみの開催となりましたが、たくさんの方々にご来場いただきました。2年の学生達も雨天を吹き飛ばす元気で楽しみながら運営していたのが非常に印象的でした。

2年1組クラス企画「〇〇を探せ！」

2-1 (C) 神門 心 彩

私たちのクラスは“ウォーリーを探せ”からインスピレーションを受けた、「〇〇を探せ」という企画をしました。内容はコスプレをした2年1組学生を探し、探し出した分報酬を渡すと言う企画内容でした。今年度の高専祭は1日目のみの開催でしたが、2年1組学生とお越しくくださった皆様とのコミュニケーションも生まれ、活気に溢れる文化祭となりました。また、お越しくくださった皆様、ご来場ありがとうございました。



2年1組クラス企画「〇〇を探せ」

仲が深まった高専祭

2-2 (A) 谷 卓

2年2組は、クラス企画で休憩スペース兼フォトスポットを行いました。当初は、作業などが滞り高専祭に間に合うか不安でしたが、無事完成し、当日はたくさんの方に来ていただき、楽しんでもらえたと思います。また、準備期間で、今まであまり話したことがなかったクラスメイトとも関わることができ、新たな繋がりも増えました。クラス企画を通して、仲間との絆も今まで以上に深まったのではないかと感じました。



等身大パネル作成時のひととき
「うん！君も合格」



先生方（のパネル）を囲む高専祭初日の2-2

クラス企画「縁日」

2-3 (C) 宮 廻 あさひ

2年3組は高専祭で縁日を開催しました。お客さんに楽しんでいただきたいという強い思いのもと、クラス一丸となって準備を進めました。話し合いが難航し、遅くまで残ることも何度かありました。高専祭が始まってからもお客さんが来てくれるのかと不安でしたが、たくさんの方がお越し下さり、楽しんでいただけたようでした。本番まで大変なこともたくさんありましたが、頑張ったよかったですから思いました。



高専祭の様子

私たちの高専祭

2-4 (M) 田 口 慧

高専祭で私たちのクラスはフォトスポットをつくりました。内容としてはトリックアート（遠近法）、マンガ風パネル、黒板アートをつくりました。準備期間はそれぞれの班に分かれ作業をしました。どの班も来られた方たちに楽しんでいただけるよう工夫をし、無事完成までもっていくことができました。うまくいくのかなどの不安もありましたが、結果は大成功だったと思います。今年は2日間の開催とはならず残念でしたが、多くの人に楽しんでいただけたと思います。



トリックアート

高専祭を終えて

2-5 (M) 芦 立 優 花

2年5組は飲料販売とゲームコーナーを企画しました。クラスみんなが協力して準備を進めてくれたり、さまざまな案を出し合ったりして、当日は大盛況でした。残念ながら、今年の高専祭は一日で終わってしまいましたが、クラス企画を通して、仲間たちとの結束が深まり、良かったと思います。



クラス企画の様子

高専祭クラス企画 3年生

高専祭を終えて

3年学年主任 機械システム部門 権田 岳

今年度は、11月1日～2日の2日間の予定での高専祭だったのですが、台風の影響の悪天候のため、11月1日のみの実施となり、11月2日は中止となってしまいました。各クラスの企画では、台風での悪天候や日程短縮に負けないよう、一所懸命でクラス企画を盛り上げようと頑張っていました。来年度は、好天に恵まれた高専祭になればと思います。

高専祭のクラス企画

3M 山崎 就真

文化祭はとても充実した楽しい行事にすることができたと思います。クラスで一緒に準備を進める中で、話したことがない人と話す機会が増え、クラスの仲が今までよりも良くなったと感じました。当日の天気は雨であまり人が来てくれないかと思っていましたが多くの方が来てくれました。当日は、他のクラスの出し物を見たり、友達と一緒に食べ歩きをしたりして、楽しかったです。1日目は天気の影響で中止になりましたが、1日目だけでも十分に楽しむことができましたと思います。



3Mクラス企画「スムージー」

高専祭 クラス企画

3E 斉藤 奏愛

3Eではカフェと劇をしました。カフェでは5Eの方に、劇ではEコースの4名の先生方にご協力いただき、来場された多くの方にEコースの魅力をお伝え出来たのではないかと思います。2つの企画を行うにあたり、準備期間、当日ともに大変でしたが、クラスのみんなや担任の先生と共になんとか乗り切ることができました。今年は台風の影響で1日だけの短い開催でしたが、クラスの仲が深まった、とても濃く思い出に残る高専祭になりました。



盛況だったE-CAFÉの様子

高専祭の打ち上げ

3J 大木 優芽花

3Jは主にフレンチトーストを販売しました。今年は雨模様で2日目が中止になり、パンや卵などが余ってしまいました。そのため後日、それらの食材を消費するために打ち上げを行いました。打ち上げは参加自由で、教室付近で卵料理やトーストを作りました。売り上げのお金でジュースなどを買ってきてもらい、各々調理していました。途中で少しハプニングが起きたけれど、それぞれが楽しそうにしていたのでよかったです。



打ち上げ時教室の様子

高専祭 クラス企画

3C 井田 聖翔

私たち3Cはおにぎりを提供しました。発案当初はきゅうりの1本漬けを提供しようとしていたのですが、食中毒の可能性もあって却下されてしまい、急遽別の案を考える必要があるという、最初から波乱の展開でした。高専祭当日も予想外のトラブルに見舞われたり、予想以上の売れ行きによって材料が無くなってしまったりと、終始バタバタしていた1日でしたが、結果的にクラス全体のチームワークが良くなったのではないかと思います。



高専祭：3Cクラス企画

3A初挑戦のクリームブリュレ

3A 川原 さやか

今年の高専祭では、クラスで初めての飲食企画「クリームブリュレ」を出品しました。バーナーを使った作業に苦戦しつつも、試行錯誤を重ね、見た目にも味にもこだわった仕上がりを目指しました。みんなで1つのものを作り上げる楽しさを実感し、クラスとして成長できたと思います。



クリームブリュレのバーナー
仕上げ中

高専祭クラス企画 4年生

令和6年度「科展」について

4年学年主任 化学・バイオ部門 小川和郎

昨年度までは、各学科の4年生が修得した技術や知識を活かして高専祭で展示・模擬実験を行うものを「科展」と呼んでいました。今年度の4年生からは総合工学科となりましたが、内容は変わらないことから、今年度も「科展」と呼んでおります。

今年度は4Mがコーヒーカップ、4Eが有志作品展、4Jがメタバース、4Cが体験ブース、4Aがガーランド広場を企画して取り組みました。課題やレポートに追われる中、短い準備期間を有効に使い、どの企画もそれぞれの専門分野を活かしたものに仕上がっていたと思います。

今年度はあいにくの天気で1日のみの開催となりましたが、学生が日頃学んでいる専門知識をわかりやすく解説したり展示したりしていますので、来年度以降もぜひ足を運んでいただきますと幸いです。

4Mコース展を振り返って

4M 吉田 浩 瑛

私達は、文化祭で3年ぶりに「人が乗れる」アトラクションとしてコーヒーカップを制作しました。設計や加工、買出し、装飾などをクラスで分担して進める中で、困難も多くありました。しかし、当日来場者が楽しむ姿を見て努力が報われたと感じました。もっと多くの方に乗っていただきたかったという心残りはありますが、怪我や事故なく終えることができ安堵しています。最後に、多大なご支援をくださった先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



コーヒーカップ展示の様子

高専祭を終えて

4E 足立 千代華

4Eのコース展では、Eコースらしさあふれるイライラ棒や、去年、一昨年と工学基礎実験で取り組んだSTEAM・音ゲー×プロジェクトマッピング、プログラミングや電気回路を応用したクレーンゲームを製作しました。各ブースとも製作に苦戦しましたが、なんとか間に合いました。悪天候での高専祭となりましたが、たくさんの方に見ただけでとても嬉しかったです。また、専門教科を活用した作品製作という貴重な経験ができました。



高専祭準備の様子

初めてのメタバース

4J 島田 優 大

4年間の高専生活で初めて、高専祭にてメタバースを題材にした出展をしました。せっかく科展で情報系としての展示をするのであれば、ワールド（メタバースの空間）を制作する学生とそれを実際に体験するお客さんの双方に良い経験となるような作品が展示できたらという考えで発案しました。2日目は中止になってしまいましたが、1日目だけでも多くの方々に楽しんで頂けて、取り組んだ甲斐がありました。



メタバースのワールド

化学体験ブース

4C 田中 好

C科の科展は、香水、バスボム、スライム、空気砲とアイスホッケーの4つのブースを設けて運営しました。初めての科展で、化学っぽいことで、何をしたら楽しんでいただけるかを考えるのが難しかったです。当日は沢山の来場者に来て頂き、楽しんでもらえたと思います。1日しか運営することが出来なくて残念に思いますが、準備から当日までみんなで協力して準備をすることが出来て良い思い出になったと思います。



園児と一緒に実験

ガーランド広場

4A 赤路 素 春

4Aは科展でガーランド広場を手掛けました。ハギの木でファミリア（旧ボイラー室）が見えなくなっていたので剪定し、ファミリア（旧ボイラー室）への道を作りました。最初は、石が浮いてきて歩きづらかったのですが、全員で力を合わせ歩きやすい道が作れました。そして、忙しい中、隙間時間でガーランドを作り、広場全体にガーランドを設置することができました。当日は生憎の雨で休憩所としての使用は少なかったですが、多くの人が見に来てくださって良かったです。



ガーランド広場

1年特別行事（企業見学・遠足）

企業見学・遠足を終えて

1年学年主任 教養教育部門 大庭 経 示

1年生の特別行事は、クラスごとに午前中は地元企業の見学、午後は遠足という日程で行われました。見学先の企業はいずれもその分野で国内外において大きな役割を担っている企業ばかりで、そのことに驚いた学生も多かったようです。ご多忙中にもかかわらず丁寧に対応してくださった各企業の皆様、この場を借りてお礼申し上げます。

午後の遠足では、長時間リラックスして級友と過ごすことができ、高専祭を通してまとまったクラスの仲がさらに深まったようでした。

特活委員より 遠足の感想

1-1 田 中 楓 鹿・中 田 真 心

初めての遠足でみんながとても楽しめていたので良かったです。企業見学の時もしっかり話が聞けていたし、先生の指示も聞いて動いていたので時間いっぱいみんなが楽しめたと思います。けがをしてしまった人がいたのは残念でしたが、何よりみんなが全てのことを楽しめていたので良かったです。



後藤総合車両所で企業見学

高専生活最初の遠足

1-2 吉 岡 来 飛

1年2組はTVC株式会社と蒜山高原センターに行きました。TVC株式会社での見学では、自動車の部品などについて、非常に詳しく説明をしてくださり、勉強になりました。それ以外のお話からでも、人に寄り添った素晴らしい会社だと感じました。その後の蒜山高原センターでは残念ながら雨となってしまいましたが、アトラクションを楽しんだり、お土産を買ったりなど、楽しく過ごせました。



TVC 株式会社にて

鳥取市からの北条オートキャンプ場

1-3 大 西 啓 太

今回、1年3組は懸樋工務店へ企業見学しに行きました。建設途中の学校や、本社の美しいトイレなどを見ることができ、胸の鼓動が止まりませんでした。建築の工夫や芸術性に触れて、学びになる貴重な体験が出来ました。また、午後は北条オートキャンプ場でバーベキューをしました。バーベキューに慣れていない人が多い中での助け合いや、美味しいお肉によって、クラスの仲が一層深まりました。



レイニーブルー

工場見学を終えて

1-4 若 林 夏 樹

午前中の工場見学ではニッポン高度紙の工場を見学させていただきました。私はそもそも高度紙をよく知らなかったのですがコンデンサや電池など私たちの身近に使われている物だと知り、よく知らないだけで生活に根付いているものを生産して下さっている企業はたくさんあるのだと学びました。



短い間で再開したジェットコースターで!

企業見学・遠足をおえて

1-5 松 尾 迅 将

私たちは鳥取県金属熱処理協業組合（とりねつ）を見学しました。見学では皆が真剣に職員の話を聞き、普段見られないような機械を見せていただきとても良い経験になりました。その後に行った蒜山高原センターでは昼食にジンギスカンをみんなで食べました。雨で動いてないアトラクションもありましたが、雨が止んでいる間に急いでジェットコースターに乗るなど皆とても楽しんでいました。



とりねつの見学

2年特別行事（地域学・校外研修旅行）

地域学の校外研修旅行を振り返って

2年学年主任 教養教育部門 竹内 彰 継

2年生は、11月14、15日に「地域学」の校外研修旅行を行いました。「地域学」とは従来のオープンファクトリーを授業化したもので、地域や地元企業への理解を深めるために総合工学科で新しく導入された科目です。見学させていただいた企業では懇切丁寧にご対応いただき、学生達は将来に向けて非常に良い経験ができました。ご多忙中、研修旅行にご協力くださいました企業の皆様方、この場をお借りしてお礼申し上げます。

研修旅行を終えて

2-1 (A) 井上 真 緒

私たちのクラスではリコーITソリューションズ株式会社、株式会社LIMNO、美保テクノス(株)の3社を見学させていただきました。それぞれの業界の特徴や社風に触れることができ、これからの進路選択の幅が広がったように思います。特に印象に残った美保テクノス(株)の見学では、普段は見ることでできない建物の内部について体験することができ、建築にさらに興味を持つ機会となりました。



リコーITソリューションズにて

学びを深めた研修旅行

2-2 (M) 岩井 眞 子

私達2組は、中国電力ネットワーク日野変電所、アイ・コミュニケーション(株)、千代むすび酒造(株)へ研修に行きました。主に電気電子、情報、化学の分野が活かそうでしたが、部品製造や建物などで機械や建築の分野も重要だと感じました。この様に研修先で活かせる分野を考える機会が得られ、有意義な研修旅行になったと思います。



GREENableHIRUZENにて



千代むすび酒造(株)での酒蔵見学

研修旅行 ～絆と学び～

2-3 (E) 金本 風舞哉

今回の研修旅行を通して、企業とはどういうものか、将来について考えるきっかけになりました。見学しているとあっという間に時間が過ぎ、どこの企業も強く印象に残っています。

私は、特に(株)王子製紙の中の機械が印象に残っています。また、ホテル内やレクリエーションなどクラスメイトとの関わりで仲もよりいっそう深まりました。この貴重な体験をこれからの学校生活やクラスでの様々な場面で役立てていけたらと思います。



ドローン空撮見学

(株式会社ヨナゴ技研コンサルタント)

研修旅行を振り返って

2-4 (J) 加藤 結 葉

この研修旅行を通して、「働く」ということについてより深く考えることができたと思います。実際に工場の中やオフィスの中を見学させていただいて、将来の自分の働く姿を現実的に捉え、想像することができました。そして、自分がどんな仕事をしたいかを考える良い機会になりました。また、レクリエーションの時間では話したことがなかった人とも関わることができたのでよかったです。



山陰酸素工業株式会社にて

研修旅行で得た学び

2-5 (M) 鐘 築 昇太郎

2年5組は1日目に山陰ビデオシステム、エースパック、2日目に米子ガスの計3社にお伺いし、施設等を見学させていただきました。その中で、各企業様が手掛けるシステム・製品が様々な産業を支え、全ての社員の皆様が責任感とやりがいを持って仕事に取り組まれている様子を体感することができました。これらの企業訪問を通じて、学校では得られない貴重な経験をし、私達の将来について考えるきっかけとなりました。



米子ガスにて

3年特別行事（工場見学旅行）

特別行事（工場見学旅行を終えて）

3年学年主任 機械システム部門 権田 岳

本科3年生は、11月14～15日の特別行事で県外企業の「工場見学旅行」を行いました。昨年度に引き続き、主に関西方面の多くの企業に受け入れていただき、今年度も充実した工場見学旅行を実施することができました。コースごとに特色のある様々な企業見学は、学生にとって将来を考えるうえでの貴重な経験となりました。ご多忙のところ、ご協力くださいました企業の皆様、保護者の皆様、関係者の皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

関西への工場見学旅行

3M 吉岡 蒼良

私たち3Mは1日目に三菱重工(株)高砂工場、2日目に大阪シーリング印刷(株)大阪工場の見学に行き、自由時間には大阪の街を散策しました。三菱重工(株)では、私たちに欠かせない電気を発電するガスタービンの製造を見学し、大阪シーリング印刷(株)では、商品のシールなどの製造する工程や機械を見学しました。生活する中で自分の成果が目に見える仕事と見えない仕事を実際に見て、自分が将来どのような場所で、どのような仕事に就きたいのかを考えるための参考になる研修になりました。



3M 記念写真

唯一無二の思い出

3E 高見 航生

私たちの目的地は大阪でした。聳え立つ高層ビル群や、鳥取には無い都市高速道路を目にする度に、およそ4時間にわたったバス移動の疲労はどこかへ飛んで行きました。日本を代表する大企業パナソニック社を見学したこと、大阪・関西万博の会場、夢洲を訪れたこと、国内有数の大型テーマパークに足を運んだこと。今回の工場見学旅行を通じて、今後の人生で忘れることはできない、唯一無二の思い出をみんなで創ることができました。



パナソニック株式会社にて

工場見学を終えて

3J 池口 寛大

今回の工場見学では、1日目に川崎重工業西神戸工場様で企業紹介や生産品の実演を見学し、2日目にはMHIソリューションテクノロジー様で製造や実験過程を見学しました。両社とも大規模な機械を扱う企業様で、普段は見る事ができない壮大な機械設備に圧倒されました。

初めて情報システムコースの学生として、ソフトウェアだけでなくハードウェアに触れることで、新たな視点を得ることができました。



集合写真

工場見学旅行

3C 比留田 董

今回、私たちCコースはカネカ高砂工場を見学させていただきました。カネカは有機化合物を主に取り扱っており、食品や医薬品など様々な事業に取り組まれています。授業で習っている単語などがお話を伺っている際にも出てきて現在行っている授業が将来の役に立つことを再認識し、より勉学に励もうと考えられるいい機会となりました。自由散策では大阪を観光することで友人との仲をより深めることができました。



カネカ高砂工業所での集合写真

学びと仲を深めた研修旅行

3A 柴崎 琉輝

3Aは大林組のマンション建設現場に行きました。初めて実際の現場を見て驚きつつ、それと同時に現場でコンクリートのことや構造のことについて少し理解できて嬉しかったです。わからないことをたくさん質問し、そこで様々な疑問が解消され、良い経験ができたと感じました。

この研修旅行で1番思い出に残ることはホテルのガーデンエリアでだるまさんがころんだをしたことです。子どもの頃を思い出してとても嬉しかったです。

建設現場を実際に見て学び、クラスメイトとも仲を深めた研修旅行は思い出にも残り、とても良い経験になって良かったです。



兵庫県立美術館にて

4年（インターンシップ報告）

令和6年度インターンシップについて

4年学年主任 化学・バイオ部門 小川和郎

インターンシップは就業体験を通じて業務内容を理解したり、職場の雰囲気を実感したりするための取り組みで、本校では本科4年生は5日間以上、専攻科1年生は10日間以上の実習を行うことで単位認定を行っています。今年度は昨年度より1.5割増の470件を超える企業等から受入れ可能とのご回答を頂きました。

最近では就職活動しながら履歴書やエントリーシートの内容で選考されることもありますので、日頃から自身をアピールできるように入念な準備が必要です。また、来年度からインターンシップは4つのタイプに分類され、例えば1dayインターンシップはオープンカンパニーと呼ばれるなど、大きな変化もあります。インターンシップを有意義なものにするためにも、早くからキャリア形成を意識して目標を具体化していきましょう。

西日本旅客鉄道株式会社でのインターンシップを通じて

4M 森下 央 翔

私は西日本旅客鉄道株式会社 車両部門でインターンシップを行いました。今回のインターンシップで行った車両設計のグループディスカッションや車両所見学を通じて、乗客の方だけでなく車両点検や運行を行う社員の方の安全を守ることや、限られた時間や人員、予算の中で効率的に作業を行うための考え方を学ぶことができました。



設計車両の発表風景

インターンシップを終えて

4E 大江 陽 斗

私は、GEヘルスケア・ジャパン（東京都日野市）のインターンシップに5日間参加しました。職種体験では、実際に1人1台超音波プローブを作らせていただきました。普段なら絶対にできない貴重な経験をさせていただきとても勉強になりました。私が普段学んでいる分野とは異なる医療という業界で、初めはとても不安でしたが今後のキャリアを選択するための大きな成長ができたと思います。



会社説明の様子

インターンシップに参加して

4J 藤井 奏

私は松江市のIT企業であるエクスウェア株式会社のインターンに参加しました。エクスウェア様の事業である生成AIを活用したシステム開発について実際にwebサイトを作りながら学びました。難しい課題でしたが社員様や友達に教えていただいてやり遂げることができました。今まであまりイメージできていなかった働く現場を体験することができたのは進路について考える上で貴重な体験で、同時に自分の課題も多く見つかりました。とても有意義な5日間だったと思います。

インターンシップを終えて

4C 平賀 そら

私は、第一三共プロファーマ株式会社のインターンシップに参加しました。業務内容の説明や工場見学、錠剤を作り改善策を考える実習などを行い、製薬会社で働くイメージを持つことができました。また、社員の方のお話で自分の仕事に責任をもつこと、視野を広く持つことの大切さを学びました。将来について真剣に考える良い機会となりました。今後の職業選択に活かしていきたいと思います。



インターンシップの集合写真

インターンシップを終えて

4A 高石 万里

この夏休みに、株式会社懸樋工務店を含め、3社のインターンシップに伺いました。卒業後の施工管理職への就職へ向けて、施工管理の実務を比較するためです。現場の雰囲気や業務内容について想像に過ぎなかったものが、より具体的になりました。「明日から現場に入れる」とお褒めの言葉もいただきました。未来の可能性は無限ですが時間は有限です。地元民のための工務店を起すという夢を実現できる進路を見極めていきたいです。



施工管理体験の実習中

課外活動・各種大会報告

校長補佐（学生） 藤 井 雄 三

多くの学生が、全国規模の大会等で活躍しています。全国高専体育大会では、卓球女子は、団体・個人シングルスで優勝し、個人シングルス4連覇、団体では3連覇を達成し、テニス女子も団体戦で優勝しています。水泳男女、柔道女子、陸上男子も入賞しています。剣道女子、バスケットボール男子も出場しましたが、上位入賞はありませんでした。全国高校総体には卓球、空手道、ヨットが出場しましたが、上位入賞はありませんでしたが、国民スポーツ大会ではヨットが入賞しています。文化活動では、科学部がリジェネロン国際学生科学技術フェアで上位入賞を果たしています。また、ロボコンは中国大会で活躍し、全国大会に出場しました。デザコンも全国大会で最優秀賞を受賞しています。

以下に入賞した各種大会等の結果を記し、入賞した諸君のこれまで積み上げてきた努力を称えとともに、残念ながら入賞に至らなかった学生諸君の今後の精進と健闘を期待しています。

第59回全国高等専門学校体育大会 出場			
卓 球	女子団体	優勝	女子卓球部
	女子シングルス	優勝	3 E 常松 世名
	女子ダブルス	2位	3 E 常松 世名、2-1 石田 皇翔
水 泳	男子4×100mメドレーリレー	4位	1-4 柳樂 大、2-2 梶村 涼太、2-5 森 映太、3 J 西山 颯
	男子4×100mフリーリレー	3位	2-2 梶村 涼太、2-5 森 映太、3 J 西山 颯、1-4 柳樂 大
	男子200m自由形	5位	1-4 柳樂 大
	男子200mバタフライ	3位	2-5 森 映太
	男子800m自由形	2位	2-2 梶村 涼太
	男子200m個人メドレー	5位	2-2 梶村 涼太
	男子100m自由形	4位	2-5 森 映太
	男子100m背泳ぎ	2位	1-4 柳樂 大
柔 道	女子個人	3位	3 A 三島 菜都子
	男子1,500m	2位	5 C 林 大飛
陸上競技	男子走高跳	12位	5 M 幅田 健友
	男子4×400mリレー	予選8着	5 M 幅田 健友、5 C 林 大飛、4 E 本城 拓人、4 E 小谷 倫太郎、4 A 浅田 溪達、4 A 河上 冬馬
剣 道	女子個人の部		5 E 三浦 真歩
	女子団体		1-1 吾郷 真優 女子剣道部
テ ニ ス	団体戦女子	優勝	中国地区合同チーム
	女子シングルス		3 C 原 花楓
	女子ダブルス		3 C 原 花楓、2-5 山崎 詩子
バスケットボール	男子		男子バスケットボール部
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024 中国地区大会			
A チーム		技術賞	3 J 齊藤 寛人、2-4 恵根茂 寿歩、2-4 吉井 理暁、4 M 森下 央翔、4 M 山本 翔揚、3 M 天島 大耀、3 M 村尾 拍哉、1-5 尾方 利光
B チーム		アイデア賞 全国大会出場	5 D 三野 航太、4 J 江谷 空、3 J 假屋 朋希、3 J 大江 真広、3 A 池田 昊立、1-5 西村 祐真、1-1 前谷 優空斗、1-4 村岡 慧一
第21回全国高等専門学校デザインコンペティション デザコン2024 in 阿南			
構造デザイン部門		最優秀賞(国土交通大臣賞)	4 A 遠藤 諒悟、4 A 越田 奏羽、4 A 齊鹿 夏希、3 A 中村 歩夢、3 A 片岡 芯太、3 A 徳永 惇哉
		優秀賞(日本建設業連合会会長賞)	4 A 横野 永人、4 A 田巻 智理、4 A 川上 修太郎、4 A 岡田 紗和、4 A 田立 早笑、4 A 辻野 功人
空間デザイン部門		企画賞(日建学院賞)	5 A 松本 結郁、5 A 河崎 舞、5 A 中島 奈々
令和6年度全国高等学校総合体育大会 出場			
卓球	女子シングルス		3 E 常松 世名
	女子ダブルス		3 E 常松 世名、2-1 石田 皇翔
空手道	男子個人形		2-5 石倉 羽陽
ヨット	ILCA 6級男子		1-2 井上 航汰
その他の大会・コンテスト			
国民スポーツ大会2024	セーリング ILCA6級男子	6位	1-2 井上 航汰
リジェネロン国際学生科学技術フェア	物理学・天文学分野	優秀賞4等	4 M 吉田 浩瑛、3 C 前田 孝太郎、2-5 鐘築 昇太郎
第71回NHK杯 全国高校放送コンテスト全国大会	創作テレビドラマ部門	制作奨励(11位)	放送部
	創作ラジオドラマ部門	優良(4位)	放送部

国スポから、さらに先へ

1-2 井上航汰

9月28日から10月1日に行われた第78回国民スポーツ大会セーリング競技会にILCA級少年男子鳥取県代表として出場しました。私にとって2回目の出場になる今大会は、佐賀県で開催され、軽風から強風までいいコンディションのなか行われました。結果は6位入賞で、去年からの成長に驚いています。今年の4月に高知県から鳥取県へ引っ越し、強豪チームのいい環境でいいコーチに教わった成果だと思います。大会期間中は、陸上での監督のサポートや、コーチからの指導、チームメイトや他県のチームとのコミュニケーションなどによって不安を感じることなく落ち着いてレースに臨めました。しかし、6位入賞とはいえど、今大会で自分はこのままではさらに上を目指すには厳しいと思知らされました。風を見極めてコースを考えることや、強風での安定した走りなど、上位5位との差は歴然でした。目標は世界選手権で結果を残すこと、それに向かってより一層練習に励みたいと思います。



ダブルハンドクラスと入れ替わりで出艇する井上航汰

国際学生科学技術フェアの物理学・天文学分野で優秀賞4等を受賞しました。

4M 吉田浩瑛

私たち科学部は、5月にアメリカ・ロサンゼルスで開催された「Regeneron ISEF 2024 (国際学生科学技術フェア)」に、日本代表として参加しました。この大会は世界中の約70の国や地域から約2,000名が集まる、世界的な高校生の研究発表の場です。私たちは、科学部で開発した分光器について、物理学・天文学部門で発表しました。発表はポスター形式で行い、審査員との質疑応答も含め、全て英語での対応が求められました。厳しい質問もありましたが、分光器の入手の難しさが国際的な課題であることを共有でき、さらに分光観測の現状について新たな視点を得る貴重な機会となりました。発表の結果、優秀賞4等を受賞し、これを受けて文部科学大臣賞も授与されました。

研究をご指導くださった竹内教授をはじめ、支援をいただいた皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。今後も、天文学の発展に貢献するべく、科学部一同さらに尽力してまいります。



ISEF2024 会場にて

全国高専体育大会卓球競技 女子団体3連覇・シングルス優勝・ダブルス2位

卓球部指導教員 角田直輝

第58回全国高専体育大会卓球競技が令和6年8月31日(土)～9月1日(日)にウィンドヒルくしろスーパーアリーナ(湿原の風アリーナ釧路)において開催されました。女子団体(5C土江亜依美、4M長谷川ゆい、4C石田朝稀、3E常松世名、3C北尾夏帆、3C清水優那、2-1石田皇翔)では、4試合をすべてストレート勝ちして優勝(文部科学大臣杯)し3連覇を達成しました(特別表彰)。女子シングルスでは、常松世名が接戦を制して初優勝を飾り2冠に輝きました。女子ダブルスでは、常松世名・石田皇翔ペアが2位に入る健闘を示しました。

この結果を受けて、9月25日(水)には伊木米子市長を表敬訪問し報告を行いました。伊木市長からは、快挙に対する称賛と今後の更なる飛躍を期待する旨の激励のお言葉をいただきました。

今大会では、団体3連覇という大きなプレッシャーの中、その高い目標を達成できたことは、選手の力はもちろんですが、支えてくださった関係者の皆様のお蔭と心から感謝しています。来年度は団体4連覇がかかります。その達成を目指して努力を続けて行きたいと思います。引き続き応援のほど宜しくお願いいたします。



伊木米子市長への報告(9月25日(水)放課後)

ロボコン中国大会を終えて

ロボコン同好会会長 5D 三野航太 (Bチーム選手)

因幡の白兔をモチーフに、鯨ロボットでエリアに橋をかけ、白兔ロボットでボールやボックスの回収を目指しました。確実に高得点着地を成功させることで、決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントでは優勝校に負けましたが、アイデア賞と同好会初の全国大会への推薦を獲得しました。

副会長 4M 森下央翔 (Aチームピットクルー)

約2m投げ飛ばしたロボットでボールやボックスを回収し帰還する競技に向け、会内でボールを最も長い距離飛ばすというコンセプトで製作を行いました。結果は予選敗退でしたが、技術賞を獲得しました。来年度も全国優勝目指して頑張ります。応援よろしくお祈いします。



Bチーム「因幡のホワイトラビット」



Aチーム「天の川伝説」

ロボコン全国大会体験記

2-4 (J) 恵祖茂 寿 歩 (ピットクルー：制御担当)

全国大会では1回戦敗退でしたが、多くの学びがありました。ロボット製作は楽しく、「好きだから作る」という姿勢が強かった反面、勝つためにどうするかをもっと考える必要があると実感しました。大会では、技術や知識不足を痛感しましたが、それ以上に成長の可能性を感じました。先輩や仲間と協力し課題を解決していく過程は、刺激的でやりがいがあります。ロボコンは仲間と絆を深め、技術を磨ける場です。興味がある人は一緒に挑戦しましょう！

2-4 (M) 吉井 暁 理 (ピットクルー：設計担当)

私はロボット1の再設計を担当しました。他の大会出場チームの設計は部品数が少なく、重量やスペック的に優れたモーターを多く取り入れていました。私のチームのロボットと比べることで、改善できそうな点がたくさん見つかりました。今後はこれらの改善点を直して、来年度ルールが発表されたその日から設計に取り掛かれるよう準備を進めたいと思います。設計に興味のある方は是非米子高専ロボコン同好会の入会よろしくお祈いいたします。



セッティングタイム



メンテナンスピットでの集合写真

プロコン競技部門に参加して

コンピュータ同好会 3J 田中拓弥、池口寛大

コンピュータ同好会の3年生2名で競技部門に参加しました。今回の競技部門では、限られた操作を繰り返して、与えられた画面から元の画像を復元する、ルービックキューブのような課題に挑みました。第一試合はなんとか勝ち抜いたものの、準決勝で大差をつけられて敗退しました。2人ともJコースに所属しているため、極限までコミュニケーションを取りながら臨むことができました。最終的には時間と技術が不足していたため、初期構想のプログラムで挑むことはできませんでしたが、多くの経験を積み、新しい発想を育てる良い機会になったと感じています。



試合中の様子 (競技部門)

第21回 全国高等専門学校デザインコンペティション in 阿南 構造デザイン部門と空間デザイン部門で受賞

〈構造デザイン部門〉 30 高専 52 チームが参加

■最優秀賞（国土交通大臣賞） 米子高専として大会7連覇

作品名：要（かなめ）

参加学生：遠藤 諒悟、越田 奏羽、齊鹿 夏希（建築デザインコース4年）
中村 歩夢、片岡 苾太、徳永 惇哉（建築デザインコース3年）

■優秀賞（日本建設業連合会会長賞）

作品名：渡鳥橋（とっとりきょう）

参加学生：楨野 永人、田巻 智理、川上修太朗、岡田 紗和、田立 早笑、辻野 功人（建築デザインコース4年）

4A 遠藤 諒悟

今年度のデザコンは徳島県阿南市で2日間にわたり、現地開催されました。今大会は「つなげる架け橋」のテーマのもと競技要項は昨年度と同じく、分割された2～4つの橋を組み立て、10kg～40kgの静的荷重に加え、30mmの高さから落下させる衝撃加重をかけるという課題でした。米子高専は昨年度の大会でも最優秀賞を受賞しており今年度は昨年度の橋を改良するチームとコンセプトを変え1から作るチームに分かれ参加しました。本番直前までどちらも昨年度の橋を越えることができず苦しみましたが最後まで諦めず、先輩や先生方に相談しながら改良を重ねることによってなんとか本番までに載荷成功することができました。しかし大会当日は台風の影響で湿度が高く紙で作られた橋にとっては厳しいコンディションでした。実験を行うまで緊張しましたがその分成功した時の喜びも大きかったです。今後のものづくりにとって貴重で一生忘れることがない体験となりました。



載荷競技の様子



受賞メンバー

〈空間デザイン部門〉 予選 112 作品、本選 11 作品が参加

■企業賞（日建学院賞）

作品名：鳥取移住訓練～鳥取に来てみんさい～

参加学生：松本 結郁、河崎 舞、中島 奈々（建築学科5年）

5A 松本 結郁

今回の空間デザイン部門は「タテ×ヨコ」をテーマに、災間を生き抜く新しい空間デザインとして私たちは、「鳥取移住訓練～鳥取に来てみんさい～」を提案しました。今年は、テーマや当日の日程が例年と違ったため、なかなか意見がまとまらず苦労することが多かったのですが、たくさん話し合いを重ねて提案を固めていきました。本選当日は、地域の方とのワークショップやプレゼン、クリティークを行いました。提案がしっかり伝わるか不安でしたが、緊張することなく発表することができました。そして、企業賞（日建学院賞）をいただくことができました。ご協力くださった方々、本当にありがとうございました。



プレゼンテーションの様子



受賞メンバー

国際交流活動・海外派遣について

海外研修・国際交流活動について

国際交流支援室長 森田 一弘

ツーリズムや経済だけでなく技術分野においても国際的な交流が活発になってきました。特に半導体や AI など先端技術分野においては世界的な技術者、研究者の流動化が進んでいます。これから社会に出ていく学生にとってこれはチャンスだと思います。高度な技術スキルとコミュニケーションスキルを併せ持てば、活躍の場が大きく広がります。

9月には学生と一緒にマレーシアのパハン大学研修に参加しました。そこでは皆さんがいかに国際的な交流に強い興味と意欲を持っているかを肌で感じる事ができましたし、日々、英語が流暢になっていくのを実感できました。同時に、短い時間でしたがパハン大学の学生と研究内容について議論できたことも興味深い体験でした。国際交流は双方向のコミュニケーションであることを改めて感じました。

皆さんにとって世界が狭く感じられるよう、これからも国際交流支援室として学生の海外活動をサポートしていきます。



マレーシア研修にて

派遣学生からの報告

マレーシア研修を通して

2-5 (M) 芦立優花

私は出国前、自身の英語力に不安があり、実際現地に着いてすぐはあまり話すことができませんでした。けれど、会話に入り話が続くと、自分でも驚くほど英語がすらすらと出てきました。英語が使われる環境に身を置くと自然と話せるようになるとよく言われますが、中学英語の基礎があればだれにでも当てはまるのではないかと今回実感しました。また、マレーシアにいて感じた日本との大きな違いは、食でした。ご飯の時に甘い飲み物が一緒に出てくることに驚きました。食べ物が辛いので、新鮮な組み合わせでした。

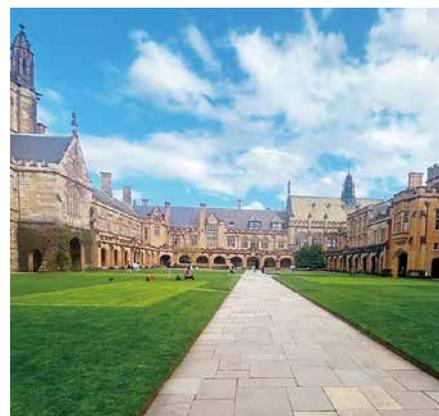


クアランタンの夜景

オーストラリア短期留学を終えて

2-5 (E) 山崎詩子

私はオーストラリアのシドニーで約2週間ホームステイをしながら語学学校に通いました。オーストラリアの人から見ると日本の高校生は幼く見えるらしく、ホームステイ先ではホストファミリーに小さな子供のように大事にしてもらい楽しく一緒に過ごすことができました。一歩街に出ると買い物をするのも注文するのも伝わらなければ何もできないため、積極的に聞くこと話すことに努力しました。留学を通して学んだことは、人や物に対する優しさや思いやりはシドニーの人でも私たち日本人も同じ気持ちを持っているけれど、シドニーではそれを言葉や態度で表現して伝えていて、私たちも見習いたいと思いました。



訪問したシドニー大学

語学研修から得た経験

私はフィリピンで2週間の語学研修に参加しました。私は語学力向上のため、異文化交流したいといった理由から参加しました。語学研修中の平日は大学で現地の学生と発音や英文法の授業を受け、しりとりや連想ゲームなどミニゲームを通して楽しく学ぶことができました。語学研修を通して特にコミュニケーションをとることの重要性を再認識することができました。語学研修で思っていた以上にたくさんの人と会話することができ、相手に気持ちを伝えるための自己表現の幅が広がり、さらなる語学力向上を目指したいと思いました。

4C 眞田春花



大学の学生と撮った写真

マレーシア・ペナン研修

マレーシアへ一週間の語学研修へ行きました。いくつかの班に分かれ、1班に1人、ファシリテーターとして豊橋技科大の学生と一緒に行動しました。班で移動することが多かったです。ジョージタウンのストリートアートや、モスクに行き、地元の学生とも交流し、行く先々でマレーシアの人たちが気さくに話しかけてくれたので英語で話す良い経験になりました。

今回の研修で、海外の人に英語で気がるに話しかけられるようになりました。また、もう少し英語を勉強して、もっと会話が続くようにしたいとも思いました。

3C 原花楓



ジョージタウンの海

留学最高！フオオオオ！

私は夏休み期間に台湾の台中市にある国立台湾中興大学へ留学してきました。今回の留学では卒業研究に関する実験操作の習得、国際交流を目的に台湾の学生と実験・交流をしてきました。海外の学生とコミュニケーションをとれる喜びを感じられたことや、若いうちに日本を外から見られたことが、自分の視野やマインドを大きく変えたと確信しています。国立台湾中興大学での留学経験は私にとって大きな財産になりました。是非、本校の学生のみなさんにも留学を経験していただきたいと思います。貴重な留学の機会を下さった榎間先生に感謝申し上げます。

5C 松本大知



1人でバスケットコートに乗り込んできました！

世界の最先端農業を学ぶ

私は「トビタテ！留学 JAPAN」第9期生として、8月9日から9月25日までイギリスとオランダに留学しました。イギリスでは語学学校に通い、英語コミュニケーション能力を向上させ、夢だった世界中に友達を作ることができました。オランダでは農業インターンシップに参加し、オランダ農業の強みや効率的な手法、SDGsへの取り組みを学びました。また、日本の農業問題解決のため、情報システム技術を活用したスマート農業を開発する企業も視察しました。今回の留学では、多くの温かい人々に迎えられ、異国の地で多くのことを学ぶことが出来ました。

3J 山崎一輝



インターンシップの様子

卒業生は今 vol.33



河岡 こなつ (かわおか こなつ)

2019年3月 電子制御工学科卒 (14期)

2019年4月 大手 IT 関連商社へ就職

同年 U ターンし、非 IT 企業 (フィットネス産業、公共関連) を経て
現在、美保テクノス株式会社 情報システム部勤務

■美保テクノス(株)について

昭和 33 年に設立し、65 年以上に亘り地域の発展に関わってきた総合建設業の会社です。一般建築工事・個人住宅・リフォーム工事・電気工事・土木工事など、幅広く建設関連業務を担っています。また、BIM や ICT 技術の活用、会社全体の DX 促進など、新しいチャレンジも積極的に行っている会社です。

■現在の仕事内容について

いわゆる「情シス」として社内の IT 環境の保守や DX 促進などを担っています。

私個人としてはヘルプデスクとしての作業割合が一番多く、様々な社員の皆様の IT 関連トラブル・疑問の解消するのが主な仕事です。

■仕事のやりがいについて

ヘルプデスク業務では、ネットワークや PC の知識が必要になるのはもちろんですが、初めて見るソフトやツールについての質問が来ることもしばしばあります。また、新しいシステム等を導入する際は、IT だけではなく、法務や関連業務の知識が必要となることもあります。そうした業務を通じて自分の知識の幅が広がり、経験となっていくことが一番のやりがいです。

■後輩たちへのアドバイス

「過去は今の自分によって評価される」。これはとある高専の先生に言われた、金言です。

私はかつて、新卒で入社した大手 IT 企業をすぐに辞め、地元に戻ってきました。そのころの私は、「人生失敗した」と思っていました。他の企業を選んでいれば、大学に進んでいれば、そもそも高専に入らなければ、と後悔ばかりの日々でした。

それから数年経った今はというと、過去の選択が何か一つでも違っていれば現在の自分が居なかったのだから、高専を出て、大手に就職し、勇気をもって辞めて帰ってきて、本当に良かった、と思っています。そう思えるのは私が今、幸福だからです。

つまり、過去の出来事は変わりませんが、「現在」が幸福であればおのずと過去の全てが肯定できるようになります。そういう意味で、人生に失敗は存在しません。

ですので、皆さんは安心して自分の進路を選択して、様々なチャレンジをしてみてください。その結果が思い描いたものとは違っていても、それは失敗ではなく、また別の幸せな人生への布石に過ぎません。いつか幸せになった自分に、良い選択だったと肯定してもらいましょう。



※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科(機械システムコース)、E…電気情報工学科(電気電子コース)、D…電子制御工学科、J…情報システムコース、C…物質工学科(化学・バイオコース)、A…建築学科(建築デザインコース)、G…教養教育部門、S…専攻科
例えば、「3M」は3年機械システムコースの学生を表しています。

発行：米子高専広報室 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009
ホームページ：https://www.yonago-k.ac.jp/ PDF 印刷：勝美印刷株式会社



ISSN 1344 - 5634

米子高専図書館報
第121号令和6(2024)年12月 発行
米子工業高等専門学校図書館

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

図書館では、本科1年生を対象に、国語科の協力を得て、今年度も「読書感想文コンクール」を開催しました。学生が自由に選んだ図書について、原稿用紙3枚以上、5枚以内で感想文を書き、夏期休業後に提出してもらいました。

応募作品数は97あり、1次審査で、各クラスから2～3作品が選ばれ、12作品が2次審査にノミネートされました。

2次審査では、その中から審査員が順位をつけ、下記のように入賞者を選びました。最優秀賞・優秀賞は複数の審査員が高く評価した作品です。

校長室での表彰式が、12月5日に行われました。

最優秀賞			
クラス	名前	読んだ本	著者
1-3	川上 侑香	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。	汐見 夏衛
優秀賞			
1-3	安田 莉緒	SNSの哲学	戸谷 洋志
1-4	山中 咲奈	そして、バトンは渡された	瀬尾まいこ
佳作			
1-1	秋田 和奏	西の魔女が死んだ	梨木 香歩
1-1	山本 樹	母という呪縛 娘という牢獄	齊藤 彩
1-2	木口 春音	きみの友だち	重松 清
1-5	栗本香緒里	舟を編む	三浦しをん
1-5	後藤 楓佳	君の臍臓を食べたい	住野 よる
1-5	西村 祐真	三匹のおっさん ふたたび	有川 浩



表彰式

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

最優秀賞 あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。

1-3 川上 侑香

私は、友達に強く勧められ、『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』を読みました。

この小説は、私が今まで読んできた恋愛小説の中でも別格で、一番涙させられ、自分の考え方を改めさせられた本でもあります。

この物語は、反抗期真っ只中の現代の中学生、百合が母親と喧嘩し、家出をするところから始まります。旧防空壕で一晩過ごし、目を覚ますと戦時中の日本にタイムスリップしていました。そこで出会った彰という青年に百合は幾度も助けられ、彼の強く優しい人柄に惹かれていきます。しかし、彼は特攻隊員であるため、近いうちに命を懸けて戦地へ飛び立つ、悲しい運命を背負っているという話です。

この作品を読んで、印象に残った場面は三つあります。

一つ目は、百合が戦時中の生活を始めていくところです。タイムスリップ後、百合はツルさんという女性の家に住まわせてもらいながら、「鶴屋食堂」で働くことになります。そこでの、現代では到底考えられない、貧しくつらい生活に百合はショックをうけます。私も、扇風機すら使えなかったということには本当に驚いたし、おそろしく不便で、私には絶対に耐えられないだろうなと思いました。そして、「欲しがりません勝つまでは」「贅沢は敵だ」といったスローガンのもと、あらゆる面で我慢することを強いられ、または自らこの方針に賛同して、貧しい暮らしをしていた人達がいたということ私たちは決して忘れてはいけなと、改めて感じました。私は毎日空調の効いた部屋で過ごし、飛行機などにおびえることもなく、食べたいときに好きなものをお腹いっぱい食べることができています。だから、戦時中の生活の様子を想像しても、やはり他人事で、



当時の人々の気持ちに半分も共感することができません。なので、せめて私はこの便利な生活を当たり前と思わず、日々感謝をして過ごしていくべきだと感じました。

二つ目は、「日本はもうすぐ戦争の負ける」と言った百合が、「非国民が！」と警官に怒鳴られる場面です。日本がこの戦争に負けることを知っている百合は、これ以上戦争を続けることに意味はないと訴えかけますが、警官は、日本が負けるということは許されない行為だと言い、「非国民」という言葉で百合を咎めます。この警官の言動から、自分なりに当時の人々の思想を解釈することができました。どれだけ生活が圧迫され、若者が兵にとられていっても、すべて「お国のため」と受け入れ、日本の勝利を信じて疑わなかったのだろうと思いました。戦争にすべてを捧げることは、私たちには全く理解ができないけど、特攻隊などという策が生み出された背景には国民の戦争への執着心がとても大きく影響していたのではないかと感じました。

三つ目は、百合が七十年越しに彰の思いを知る場面です。現代に戻った百合は社会科見学で特攻資料館を訪れました。百合はそこで、遺書の展示の中に、七十年前、彰が自分宛に書き遺した手紙を発見しました。小説では、3ページにわたって、彰の、百合への思いが綴られていました。この場面は作中、最も感動したところです。彰の気持ちを知れた喜びと、会いたくても二度と会えないというつらい思いを抱えた百合に非常に感情移入し、胸が締め付けられるようでした。彰のように大事な人と一生を過ごすことができなかった若者が、大勢命を落としていったのだと考えると、本当に戦争は憎いし、無力さも感じます。そして、やはり命は何よりも大事で尊いものだ実感しました。

この物語の素晴らしいところは、私たちと同年代で現代を生きる百合の視点で、恋愛という身近な要素に絡めながら描くことで、戦争を経験していない私たちにもしっかりと戦争の悲惨さを伝えてくれるところです。戦争は人々の生活だけでなく、人々の想いまでも不自由にし、理不尽に奪っていくものなのだを知りました。そして、私たちの生活はいかに平和で、幸福なものかということも改めて実感させられました。

この本で学んだ戦争という歴史、当たり前の日常

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

の有難さ、命の尊さを決して忘れず、日々感謝の気持ちを手放さずに過ごしていきたいです。

優秀賞 SNSの哲学

1-3 安田 莉緒

私はこれまでに、SNSの正しい使い方や注意すべきことについて学習する機会が何度もあった。

しかし、教わることのほとんどは既に知っていて、それを再確認する時間だった。そこで、SNSと哲学を結び付けた時、

多くの人が日常的にSNSを使うこの社会で大切な新しい気づきを得ることができるかもしれないと思い、この本を読み始めた。

この本は、考えたいと思わせるいくつもの気づきを与えてくれた。複数の章の中で一番考えたいと思った身近な話題の章について考えを深めていく。

SNSを使っていると息苦しくなることがあるのになぜ離れることができないのか。この問いを見て私ははっとした。問いの言葉一つ一つに重なる経験があった。それにもかかわらず、こうして文字にされるまで考えたことがなかった。

筆者は息苦しくなることの例として、充実した生活を投稿する友達と自分を比較して落ち込むことや、自分より優れた力を持つ人に嫉妬することを挙げている。そして、SNSをなかなか離れることができないのは、承認欲求によって出現した息苦しさが再び承認欲求を生み出し、ここから逃れることが難しいからだという考えを述べている。

私はSNSを使用する中で、攻撃的なコメントによるトラブルをよく目にする。自分に向けられたものでなくても心無い言葉を見て嫌な気持ちになったことがあるのは、きっと私だけではないだろう。しかし、私は現在もSNSを使用している。なぜなのか。問いを自分に置き換えて、承認を中心とした筆者の考えとは別の視点から哲学的に考えてみる。

まず、哲学的に考えるとはどういう意味か。筆者は次の言葉を記している。「この本はSNSについて



哲学的に考えます。しかし、その本当の狙いは、私たち自身が何者であるかを考えることです。」私はこれを読んで、SNSを使う自分について哲学的に考えるということは、自分をよく理解しようとすることと同じ意味であると考えた。

自分について考えてみると、私がなぜSNSを使って息苦しさを感じても離れていないのかが分かってきた。私は人に悩みを相談することが苦手だ。嫌な事があったら誰かに相談するのではなく、SNSで面白い動画を見て、気に入っている人の投稿を見て悩みを忘れようとする癖がある。また、面倒くさいことを目の前にした時もSNSの世界へと逃げ込んでしまう。そして、SNSで感じた息苦しさもSNSを使って忘れようとするため、離れることができていないのだと思う。

私はSNSから距離をとるために二つのことを実践してみようと思う。一つ目は、自分を守るために人に相談することだ。嫌なことがあってSNSを使ったとしても、解決や納得はできないため、心のどこかには残り続けると気付いた。二つ目は、SNSの代わりになるものを見つけることだ。私は先に好きなことをしてから、面倒くさいことをしたほうが作業がはかどるのだが、そこで息苦しさを感じると切り替えが難しいので、息苦しさを感じないことを見つければ良いと考えた。

この本を読んで、私は自分自身と親しくなることができた。私が考えを深めた章以外では、SNSに関する時間の問題や言葉の在り方、ハッシュタグと政治の関わりなどについて哲学的に考えており、身近なはずの物事についてすぐ答えられない問いを立てて気づきを与えている。哲学と聞くと難しいイメージがあったが、自分でも気付けていなかった本心に気付くことができる考え方だと知った。

多くの人が新しく哲学という視点を持ち、自分自身と親しくなれたとき、日常からは新しい気づきを得ることができ、一人ひとりが過ごしやすい社会へと近づいていくのではないだろうか。

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

優秀賞 そして、バトンは渡された

1-4 山中 咲奈

家族の形は様々である。「普通の家族」とは一体何だろう。両親そろっていて兄弟がいて同じ家で一緒に暮らしていることだろうと思う人が多いだろう。

昨今、特殊な形態の家族が増えてきているように感じる。ひとり親家庭、ステップファミリーなどがその例である。所謂「特殊な家族」が増えているのはなぜなんだろうと考えることがある。社会の情勢の変化が関係しているのだろう。そんなことが気になっている時この本に出会った。

「そして、バトンは渡された」の主人公である優子は、三回苗字が替わり、父親は三人、母親は二人、家族の形態は十七年間で七回も変わっている。これだけ状況が変化していれば、しんどい思いをすることは多少なりともあるだろうが、優子は、これといって他人に相談するほどの悩みが無かったということが悩みだった。

高校生の優子は三人目のお父さんの森宮さんと暮らしていた。森宮さんは東大出身のエリート会社員で、衣食住の保障以外にも、優子のやりたいことを応援し、悩みを聞いたり、進路の相談にもものつてくれた。しかし、優子には「やっぱり本当のお父さんじゃないから怒ったり、反対したりしないのだろう。」という気持ちがあった。

優子は、美人で成績も良く、モテる女の子だ。そういう風に育ててくれたのは、小二のときにお母さんとなった梨花さんの影響だった。梨花さんは、「女の子なんだから好かれなくちゃダメよ。人に好かれるかどうかで女は幸せになれるか決まる。」と豪語していた。私は、その言葉に共感を覚えた。性別・年齢問わず人に好かれる。そのためには、人に優しく、自分の内面・外見を磨くことが大事だと思う。優子は梨花さんに育てられたことで、控えめで、思いやりがあり、感受性が豊かな女性に育っていった。



友達の妬みにも、怒らず冷静に振る舞っていた。恋も、自分がピアノで感銘を受け、自由な道に行く無鉄砲な早瀬君に惹かれ、受け入れることで結婚というゴールを迎えた。

優子の十七年間は、普通ではない年月だ。もちろん私はこのような経験をしたことはない。優子がどの親にも愛されていたことは、優子の結婚の報告で明らかになる。海外に転勤になった父親は、優子にずっと手紙を送っており、その父親に優子を取られなかった梨花さんは手紙を隠していた。そして優子がピアノを欲しがると、ピアノを持つお金持ちの泉ヶ谷さんを結婚した。自分の病気が分かった時、ずっと優子を大事にしてくれるであろう頭の良い森宮さんと結婚し、優子を託した。こうやって優子への愛という絆で、親（保護者）というバトンをつないでいった。

優子は、とても幸せだと思う。普通でない年月を過ごすことで、優子には難しい選択を強いられることはあったが、そこにはいつも優子への両親からの愛があった。高校の卒業式で、担任の向井先生に「あなたみたいに親にたくさんの愛情を注がれている人はなかなかいない」と書かれた手紙をもらっていた。この手紙は、優子に、本当の親でなくても自分は愛されていたという自信を与えてくれたと思う。この手紙でこの先も堂々と生きていく糧となっただろう。

家族の形は様々である。本当の親であっても、愛情を受けることのできない子供達はたくさんいる。子供に親は選べない。だからこそ、その子供に自信を与え、守ってくれる存在が必要である。優子のように、恵まれた子であっても、生き方を肯定してくれる存在が必要である。生きていく中で自己肯定感は大変である。社会全体で、子供に愛を与え、自己肯定感が備わるような大人に育てていかないとけないと思う。

このような新しい考えや感覚を知り、自分は家族からたくさんの愛情を注がれとても幸せに過ごしていると、この作品を読んで改めて感じる事ができた。これからより一層家族を大切にしていきたいと思った。

図書館からのお知らせ

- ① 令和6年度部門推薦図書を、図書館棟1階交流プラザに展示・配架しています。
部門ごとに分けて配架しています。日々の学習や、コース選択の参考にしてください。
- ② 長期未返却図書がある学生は、冬季休業期間に入る前に返却をお願いいたします。
毎週水曜日の、16時ごろに督促メールが自動配信されていると思います。
必ず確認をして、速やかに対応をお願いします。
もし、紛失・破損等で返却ができない状態であるならば、その旨を Teams のチャットにご連絡ください。
返却の手続きを進めさせていただきます。



図書館業務・活動記録

6月11日(火) 第1回図書館運営委員会
6月21日(金) ブックハンティング(1回目・今井書店錦町店)
7月10日(水)・11日(木)
登校禁止に伴い臨時休館
7月16日(火) ブックハンティング(2回目・今井書店錦町店)
7月22日(月)～9月6日(金)
夏季休長期貸し出しの実施
7月27日(土)・28日(日)、8月3日(土)・4日(日)
前期末試験期時の開館
8月9日(金)・10日(土)
オープンキャンパスのため休館

8月13日(火)～16日(金)
一斉休業日に係る休館
9月18日(水) 校内ビブリオバトル大会開催告知
(規定人数に達しなかったため、今年度は未開催)
10月1日(火)～12月1日(日)
鳥取県立図書館主催
「図書館へ行こう！」キャンペーン開催
11月23日(土)・24日(日)・30日(土)、12月1日(日)
後期中間試験時の開館